

2007年(平成19年)9月12日 (水曜日)

「カマス理論」―水槽にカマスと餌の小魚を入れて、間をガラスで挟みます。餌を取ろうと何度もガラスに当たろうちにカマスは学習し、ガラスをはずしても餌を取ろうとしなくなります。

# 計 | 雨 | 晴

狭い水槽の中で固定観念や常識という枠にとらわれ、見えない壁を自ら作って挑戦すること論めてしまう、というお話です。

壁を打破する勢いで、この八月、佐渡のアイマーク環境とサンアロー化成の共同開催による地域密着型のインターシップ(就業体験)が実施されました。参加したのは北海道から沖縄、そして海外は中国よりの大学生十三人。佐渡の文化、自然、歴史に触れな

## 見えない壁

がら就業体験し、地元の人や島内経営者との交流を通して学ぶ十日間のプログラムは、学生たちの「なんとなく」取り組むつもりだった就職への意識を変えざるきっかけになったそうです。



ナスに捉えがちな見えない壁を乗り越えた積極的なアプローチ。その気持ちに応えるかのように、学生たちは発見を繰り返し、行動することの大切さを学び、人との絆を築いていきます。期間中、彼らと接する機会があった私も、自らの見えない壁にハッと気が付き、背筋を伸ばして大きく深呼吸。地球規模で環境やものつくりを考えるべき時代、見えない壁を乗り越える勇気をもてば、どこにいても広い世界が見えてくるに違いないのです。

この制度を昨年から始めたアイマーク環境の村山由貴男社長は「カマス理論」を脱きつつ、学生たちにまず佐渡を知ってもらい、その広い可能性を認識してほしいと言います。村山さんの試みは、離島という地理的特徴をマイ

「カマス理論」の続きですが、水槽に新しいカマスを入れ、そのカマスが元気に餌を食べると、他のカマスも一斉に餌を食べ始めるそうです。インターシップを終えて、佐渡への就職を検討している学生も数人いるとのこと。再び佐渡に戻って、そんな元気なカマスの役割を担うかもしれません。